

図 1.1 医育機関 後医として対応した場合の術前 CT 撮影の実施有無
(41 施設)

<参考資料：病院用質問紙>

「歯科医療の業務のあり方」に関する質問票

厚生労働科学研究「歯科医療関連職種と歯科医療機関の業務のあり方及び需給予測に関する研究班」

研究代表者 三浦宏子

研究分担者 佐藤慶太

【本調査の記入について】

① 以下の質問事項について、該当するものにチェックを入れて下さい。お手数をおかけしますが、すべての項目にご記入下さい。

② アンケート記入後は、同封しております返信用封筒にて、○月○日(○)

までにご投函いただければ幸甚に存じます。

③ 本調査で得られました結果につきましては統計的分析を行い、歯科医療の業務のあり方を検討する基礎資料とする予定です。また、本調査の結果は、組織・個人が特定できる情報を一切含まない形にして、報告書ならびに学会・論文で情報公開致します。

④ 本調査に関するお問い合わせ等がございましたら、本質問票の最終ページに記載してある連絡先までご連絡下さい。

.....

以下の項目について、ご回答を御願ひ致します。

尚、対象となるのは、患者において人体的な被害が生じた事例（影響度分類のレベル 3a 以上 ※別紙資料参照）に限定して戴き、物損的な被害が生じた事例、針刺し事例、クレーム関連事例等については除外して下さい。

また、データの集計作業中等である場合は、判る範囲でお答えになられても構いません。

次ページへ続く

- (1) 過去5年間の医療事故の年度別の報告件数について教えてください。

| | レベル3a(件) | レベル3b(件) | レベル4a(件) | レベル4b(件) | レベル5(件) |
|------|----------|----------|----------|----------|---------|
| H18年 | | | | | |
| H19年 | | | | | |
| H20年 | | | | | |
| H21年 | | | | | |
| H22年 | | | | | |

- (2) 過去5年間の医療事故の態様別の件数について教えてください。

| | H18年(件) | H19年(件) | H20年(件) | H21年(件) | H22年(件) |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 抜 歯 | | | | | |
| 投 薬 | | | | | |
| 麻 酔 | | | | | |
| 歯牙切削 | | | | | |
| 歯内治療 | | | | | |
| 切開等の外科処置 | | | | | |
| インプラント術 | | | | | |
| その他 | | | | | |

- (3) 当該医療を提供した場所について教えてください。

| | H18年(件) | H19年(件) | H20年(件) | H21年(件) | H22年(件) |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 医療機関内 | | | | | |
| 訪問診療先 | | | | | |
| その他 | | | | | |

- (4) 事故の原因について教えてください。

| | H18年(件) | H19年(件) | H20年(件) | H21年(件) | H22年(件) |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 手技によるもの | | | | | |
| 診断によるもの | | | | | |
| 検査によるもの | | | | | |
| 指示等の連携によるもの | | | | | |
| 機器の不具合によるもの | | | | | |
| 合併症によるもの | | | | | |
| その他 | | | | | |

次ページへ続く

(5) 事故の防止に関して取り組まれている状況を教えてください。

(□の中にレ印を記してください。複数回答は可能です。)

- 医療安全に関する研修を実施している。
- 感染対策に関する研修を実施している。
- 医療機器の保守点検計画を策定している。
- 医薬品の取り扱いマニュアルを策定している。
- 医療安全に関するガイドラインを策定している。
- 事故報告システムを設置して運用している。
- 医療安全に関する委員会を定期的を開催している。
- 感染対策に関する委員会を定期的を開催している。
- 医療機器を導入した際に安全使用のための研修を実施している。
- 医薬品の安全使用のための研修を実施したことがある。
- その他 (下欄に記入してください)

(6) (2) の質問でインプラント事故の報告があった場合についてお伺いします。

以下の詳細項目についてお教えてください。

1) 事故の状況について

① 事故の形態

- a 下顎管への穿孔 (件)
- b 上顎洞への穿孔 (件)
- c 鼻腔等への穿孔 (件)
- d 下顎皮質骨からの穿孔 (件)
- e 副鼻腔へのインプラント体の迷入 (件)
- d 術後の感染 (件)
- e 隣在歯の損傷 (件)
- f その他 (件) 下欄に記入してください。

次ページに続く

②事故の原因

- a 骨切削時の手技によるもの (件)
- b 診断や治療計画に関するもの (件)
- c 療養指導に関するもの (件)
- d 不明 (件)
- e その他 (件) 下欄に記入してください。

③事故後の病状等について

- a 麻痺等の神経障害 (件)
- b 開口困難等の機能障害 (件)
- c 慢性炎症等 (件)
- d 重度後遺症 (件)
- e 死亡 (件)
- d その他 (件) 下欄に記入してください。

2) 術前のCTによる画像診断の実施の有無について

- a 実施していた (件)
- b 実施していなかった (件)
- c 不明 (件)

ご協力ありがとうございました。

「歯科医療の業務のあり方」に関する質問票

厚生労働科学研究

「歯科医療関連職種と歯科医療機関の業務のあり方及び需給予測に関する研究班」

【本調査について】

- ④ 本調査は、すべて無記名にて実施致します。
- ⑤ 以下の質問事項について、該当するものにチェックを入れて下さい。
- ⑥ 記入後は、同封の返信用封筒にて、〇月〇日(〇)までにご投函いただければ幸甚に存じます。
- ⑦ 本調査で得られました結果につきましては統計的分析を行い、研究報告書として公表する予定です。

1. 事故の防止に関して、貴会にて取り組まれている状況を教えてください。

(□の中にし印を記してください。複数回答可。)

- ①医療安全に関する研修を実施している。
- ②感染対策に関する研修を実施している。
- ③医療機器の保守点検計画を策定している。
- ④医薬品の取り扱いマニュアルを策定している。
- ⑤医療安全に関するガイドラインを策定している。
- ⑥医療安全に関する委員会を定期的開催している。
- ⑦感染対策に関する委員会を定期的開催している。
- ⑧医療機器を導入した際に安全使用のための研修を実施している。
- ⑨医薬品の安全使用のための研修を実施したことがある。
- ⑩その他の取組(下欄に記入してください)

2. 貴会における医療事故の件数・内容についての把握状況について、お伺いします。該当する項目に印をつけて下さい。

- ①件数ならびにその内容の両方を概ね把握している → 裏面の質問3・4にもお答え下さい
- ②件数のみ把握している → 裏面の質問3にもお答え下さい
- ③把握していない → これで調査は終了です
ご協力、有難うございました。

前問2で、①もしくは②にチェックを付けた方にお伺いします。

お手数をおかけしますが、以下の項目にもご回答下さい。

3.過去5年間で貴会が把握されている医療事故の年度別の件数について教えてください。

なお、把握されていない年度には、当該欄に「×」印を付けて下さい。

| | H18年(件) | H19年(件) | H20年(件) | H21年(件) | H22年(件) |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総数 | | | | | |

4. 上記の「設問3」について、その態様別の大まかな内訳について教えてください。

内訳を把握されていない場合は、当該欄に「×」印をつけて下さい。

| | H18年(件) | H19年(件) | H20年(件) | H21年(件) | H22年(件) |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 抜 歯 | | | | | |
| 投 薬 | | | | | |
| 麻 酔 | | | | | |
| 歯牙切削 | | | | | |
| 歯内治療 | | | | | |
| 切開等の外科 処置 | | | | | |
| インプラント術 | | | | | |
| その他 | | | | | |

ご協力ありがとうございました。

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

平成 23 年度 分担研究報告書

未就業歯科衛生士の再就職ニーズの検討

研究協力者 薄井 由枝 国立保健医療科学院 客員研究員（地域医療システム研究分野）

研究代表者 三浦 宏子 国立保健医療科学院 統括研究官（地域医療システム研究分野）

研究要旨：

平成 22 年の厚生労働省等の報告によると、歯科衛生士として就労している者は、歯科衛生士名簿登録者のうち約 4 割にすぎない。質の高い歯科保健医療サービスに関するニーズが高まる中、未就業歯科衛生士の復職は、現在の深刻な歯科衛生士不足問題を解決するための一手段である。そこで本研究では、任意に依頼した歯科衛生士養成学校を地域別に 5 校選定し、その同窓会の協力のもと同窓生を対象として、自由記述回答形式の質問を含む無記名自記式質問紙調査を行い、歯科衛生士免許保持者の就業状況ならびに未就業者に対して再就職の意思の有無および復職に関する障害等に関わる実態を調査した。その結果、現在未就業で復職を希望する歯科衛生士の多くは、既婚者で、世帯人数や子供の数が相対的に多い家庭環境であり、歯科衛生士として比較的短い勤務年数を有することが明らかとなった。また、復職の障壁として「育児」や「家庭との両立」が挙げられた。今後は、未就業歯科衛生士に対する研修会の実施や子育てしながら就業が継続できる社会的環境整備などの具体的な就労支援策について検討が必要であることが示唆された。

A. 研究目的

従来日本では、歯科衛生士は、歯科診療室内での診療補助業務が主体であった。しかし、社会的ニーズが多様化している近年、歯科衛生士にもより高度化した業務が求められている。特に、少子高齢化が著しい現在、口腔ケアや口腔疾患の予防を中心とした質の高い歯科保健医療サービスに関する国民の期待は高い。そのニーズに応えるサービスを効果的に提供するためには、歯科医師とともに歯科衛生士を充足することが必要だと考えられる。このような現状の中、未就業歯科衛生士の復職は、現在の深刻な歯科衛生士

不足の問題を解決するための一手段とされる。

しかしながら、平成 22 年の厚生労働省等の報告によると、歯科衛生士として就労している者は、歯科衛生士名簿登録者のうち約 4 割にすぎない。また、過去において、歯科衛生士の就業状況や復職等の調査がなされているが、地域的な偏り等が無いように、かつ十分な客体数を有するようにデザインされた調査研究は少ないと考えられる。再就職へのニーズの把握や、就労および再就職支援の対策を構築していく上でも、地域特性を踏まえた調査研究による知見の集積は重要であ

ると考えられる。

そこで本研究は、任意に依頼した歯科衛生士養成学校を地域別に5校選定し、その同窓会の協力のもと同窓生を対象として、現在の勤務状況ならびに離職経験の有無とその理由、復職に際しての不安等についての質問と自由記述回答形式の質問を含む無記名自記式質問紙調査を行った。調査で得られた回答から、歯科衛生士免許保持者の就業状況を明らかにした。さらに未就業歯科衛生士を抽出し、復職の意思ならびに障壁等に関わる実態と、具体的な就労支援策などの個々の課題に対する要因を解析し、検討を加えた。

B. 研究の対象と方法

1. 対象者の選択と方法

本研究では、任意に依頼した歯科衛生士養成学校の同窓会に属する歯科衛生士免許保持者を対象とし、無記名自記式質問紙調査を行った。調査に関して地域要因が関係する可能性もあると考えられることから、対象校を全国5地域（北海道・関東・中部・関西・九州）の中都市から選択した。選択の基準は、40年程度の歴史があり、かつ活発な同窓会組織を有することとし、先行研究の対象地域（東京都・神奈川県・埼玉県・島根県・静岡県・新潟県・三重県）は除外した。最終的に、5道県の中から、調査主旨について十分に説明した上で同意が得られた各地域1校を選択した。

その後、同窓会の協力のもとで連絡可能な同窓生を年齢分布が偏らないように選択していただき、調査用紙を郵送法に

て配布し回収した。対象者数は、各養成学校同窓会あたり、650-1000名程度であった。なお調査期間は、2011年9月から2011年10月までの1ヵ月間であった。

2. 調査用紙

配布した無記名自記式質問紙は本文末に掲載した。主たる質問項目は、対象者の属性（年齢・婚姻状況・世帯人数・子供の数・歯科衛生士免許取得後年数・歯科衛生士としての延べ勤務年数）、歯科衛生士会への入会の有無、歯科衛生士対象の研修会等参加の有無、転職経験の有無とその回数および歯科以外の勤務経験とその回数であった。

また、復職に関する質問として、歯科業務への復職の希望の有無、希望勤務時間帯、希望賃金、希望業務に加え、復職についての心配事や障害、復職をためらう理由、復職に関して重視する点などの復職に関しての自由記載形式の総合的意見も収集した。

3. 分析方法

最初に回答者の全体像を把握するため、4同窓会全体の単純集計と解析を行った。その後、本調査の目的となる「現在未就業の歯科衛生士で将来歯科業務へ復帰の希望がある者」を抽出し、同じく抽出した「現在就業中の歯科衛生士」との比較を、記述統計や他の適切な統計手法を用い統計解析を行った。本研究の分析に使用した統計ソフトは、IBM SPSS Statistics Basic for Japan Version 4.0, for Windows である。

(倫理上の配慮)

事前に国立保健医療科学院・研究倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けてから実施した(承認番号 NIPH-IBRA # 11016)。無記名の自記式質問紙を送付する際に、研究の主旨ならびに方法等を記載した文書を同封し、同意された場合のみ記入した質問紙を返送してもらう形でデータ回収を行った。なお、得られた回答済みの質問紙については、すべて ID 番号で処理を行った。

C. 結果

1. 調査票の送付数および回収率(5同窓会)について

対象校を全国 5 地域(北海道・関東・中部・関西・九州)から選択した。選択の基準は、先行研究の対象地域(東京都・

神奈川県・埼玉県・島根県・静岡県・新潟県・三重県)は除外し、40 年程度の歴史がありかつ活発な同窓会組織を有する同窓会を選んだ。調査主旨について十分に説明した上で、同窓会からの同意が得られた各地域 1 校を選択した。

調査用紙の配布状況、到達状況および回収率は表 1 に示す。最終回収率は(①・②・④・⑤)の回収率の平均) 50.4%であった。なお、③同窓会は、先方同窓会の個人情報保護法等の規約により、配布方法が他の同窓会(①・②・④・⑤)と異なったため、回収率が著しく低下する結果となった。これを受け本報告書においては、③同窓会の送付数および返信数を全体数から除き、4校の同窓会(①・②・④・⑤)からの返信を有効回答者として、分析を行った。

表 1 調査用紙配布状況および回収率

| 地域 | 送付数 | 戻り | 実質送付数 | 返信数 | 回収率 |
|----|-------|-----|-------|-------|----------|
| ① | 1,028 | 48 | 980 | 397 | 40.5% |
| ② | 697 | 42 | 655 | 424 | 64.7% |
| ③ | 1,000 | 不明 | 1,000 | 135 | 13.5% |
| ④ | 719 | 18 | 701 | 359 | 51.2% |
| ⑤ | 651 | 59 | 592 | 297 | 50.2% |
| 計 | 4,095 | 167 | 3,928 | 1,612 | 平均 41.0% |

最終回収率=50.4%

2. 回答者数について(表 2)

全回答者(4同窓会)、就業歯科衛生士および未就業歯科衛生士の全体像は、総回答者数が 1,474 人、現在歯科関連業務に従事している歯科衛生士が 891 人、現在は未就業であるが、歯科関連業務へ復

職を希望する歯科衛生士が 187 人であった。

3. 回答者の年齢・免許取得後年数・歯科業務年数について(表 2)

有効回答者の平均年齢は 42.2±10.48

歳であり、就業歯科衛生士群では 40.32 ± 10.39 歳、および未就業歯科衛生士群では 39.56 ± 10.00 歳であった。次に「就業」か「未就業+復帰希望」かの別で、回答者の年齢について χ^2 検定を行った結果、 $p < .001$ で有意差が認められた ($\chi^2 = 18.192$, $df=4$, $p < .001$)。

歯科衛生士免許取得後の平均年数は 21.92 ± 10.66 年であり、就業歯科衛生士群では 20.04 ± 10.55 年、未就業歯科衛生士群では 19.52 ± 10.94 年であった。「就業」か「未就業+復帰希望」で、歯科衛生

士免許取得後の年数について χ^2 検定を用いて検定したが、有意差は認められなかった。

歯科関連業務延べ就業平均年数は 12.17 ± 8.26 年、就業歯科衛生士群では 14.37 ± 8.59 年、未就業歯科衛生士群では 9.33 ± 5.96 年であった。「就業」か「未就業+復帰希望」の別で、就業年数について関連性を見るために χ^2 検定を行ったところ、 $p < .001$ で有意差が認められた ($\chi^2 = 68.883$, $df=8$, $p < .001$)。

表 2 回答者数、平均年齢および就業関連年数

| | 有効回答者全数 | 就業歯科衛生士群 | 未就業+復帰希望 歯科衛生士群 | χ^2 検定 |
|--------------------|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| N 数および% 年齢 (平均) | 1,477 人 : 100% | 891 人 : 60.32% | 187 人 : 12.66% | |
| 免許取得後の 年数 (平均) | 42.20 ± 10.48 歳 | 40.32 ± 10.39 歳 | 39.56 ± 10.00 歳 | ** |
| 歯科業務就業 年数 (平均) | 21.92 ± 10.66 年 | 20.04 ± 10.55 年 | 19.52 ± 10.94 年 | n. s. |
| | 12.17 ± 8.26 年 | 14.37 ± 8.59 年 | 9.33 ± 5.96 年 | ** |

n. s. : 非有意, ** : $p < .001$

列項の詳細 :

「就業歯科衛生士群」; 現在歯科関連業務を行っている歯科衛生士群

「未就業+復帰希望」; 現在歯科衛生士として就業していないが、歯科業務に復帰を希望している歯科衛生士群

「 χ^2 検定」; 「就業」か「未就業+復帰希望」の別での検定

4. 回答者の婚姻状況・世帯人数・子供の数について (表 3)

婚姻状況の既婚者の割合は 77.45% であり、就業歯科衛生士群では 67.58%、未就業歯科衛生士群では 92.39% であった。

「就業」か「未就業+復帰希望」かで、婚姻状況について χ^2 検定を用いて検定し

た結果、有意差が認められた ($\chi^2 = 46.295$, $df=1$, $p < .001$)。

平均世帯人数は 3.5 ± 1.3 人であり、就業歯科衛生士群では 3.49 ± 1.36 人、未就業歯科衛生士群では 3.58 ± 1.14 人であった。「就業」か「未就業+復帰希望」かの別で、世帯人数について関連性を見るた

めに χ^2 検定を行ったところ、有意差が認められた ($\chi^2=14.928$, $df=5$, $p<.05$)。

さらに、平均子供の数は 1.5 ± 1.1 人であり、就業歯科衛生士群は 1.30 ± 1.11 人、未就業歯科衛生士群は 1.58 ± 0.99 人であ

った。「就業」か「未就業+復帰希望」で、子供の数について χ^2 検定を用いて検定したところ、有意差が認められた ($\chi^2=78.242$, $df=5$, $p<.001$)。

表3 婚姻状況、世帯数および子供の数

| | | 4同窓会 | 就業歯科衛生士群 | 未就業+復職希望 歯科衛生士群 | χ^2 検定 |
|-----------|----|----------------|------------------|--------------------|-------------|
| 婚姻 状況 | 既婚 | 77.45% | 67.58% | 92.39% | |
| | 未婚 | 22.55% | 34.42% | 7.61% | ** |
| 世帯人数 (平均) | | 3.5 ± 1.3 人 | 3.49 ± 1.36 人 | 3.58 ± 1.14 人 | * |
| 子供の数 (平均) | | 1.5 ± 1.1 人 | 1.30 ± 1.11 人 | 1.58 ± 0.99 人 | ** |

「 χ^2 検定」; 「就業」か「未就業+復帰希望」の別での検定; * : $p<.05$, ** : $p<.001$

5. 歯科衛生士会への入会の有無と研修会参加状況について (表4)

歯科衛生士会への入会している者の割合は20.31%であり、就業歯科衛生士群では25.94%、未就業歯科衛生士群では11.96%であった。「就業」か「未就業+復帰希望」の別で、歯科衛生士会への入会について χ^2 検定を行ったところ、有意差が認められた ($\chi^2=16.5375$, $df=1$,

$p<.001$)。

また、研修会等への参加している者の割合は61.41%であり、就業歯科衛生士群では71.26%、未就業歯科衛生士群では41.3%であった。「就業」か「未就業+復帰希望」で、研修会への参加について χ^2 検定を用いて検定した結果、有意差が認められた ($\chi^2=11.209$, $df=1$, $p<.001$)。

表4 歯科衛生士会入会の有無および研修会等への参加の有無

| | | 4同窓会 | 就業歯科衛生士群 | 未就業+復職希望 歯科衛生士群 | χ^2 検定 |
|--------|-----|--------|----------|--------------------|-------------|
| 歯科衛生士会 | 入会 | 20.31% | 25.94% | 11.96% | |
| | 未入会 | 79.69% | 74.06% | 88.04% | ** |
| 研修会等 | 参加 | 61.41% | 71.26% | 41.30% | |
| | 未参加 | 38.59% | 28.74% | 58.70% | ** |

「 χ^2 検定」; 「就業」か「未就業+復帰希望」の別での検定; ** : $p<.001$

6. 転職経験の有無とその回数 (表5)
 歯科関連の業務所での転職経験者の割合は 66.08%であり、就業歯科衛生士群では 69.33%、未就業歯科衛生士群では

60.87%であった。 χ^2 検定の結果、経験者の割合および平均転職回数において有意差は認められなかった。

表5 転職経験の有無とその回数

| | 有 | 平均回数 | 無 | χ^2 検定 |
|--------------------|--------|-----------|--------|-------------|
| 4 同窓会 | 66.08% | 2.19±1.21 | 33.92% | |
| 就業歯科衛生士群 | 69.33% | 2.30±1.27 | 30.67% | n. s. |
| 未就業+復職希望 歯科衛生士群 | 60.87% | 2.02±1.17 | 39.13% | n. s. |

「 χ^2 検定」; 「就業」か「未就業+復職希望」の別での検定; n. s. : 非有意

7. 歯科以外での勤務経験とその回数 (表6)

歯科関連以外の業務への転職経験者の割合は、4 同窓会は 43.24%、就業歯科衛生士群は 33.10%、未就業歯科衛生士群は

33.87%であった。「就業」か「未就業+復職希望」かの別で、歯科以外の転職経験の有無およびその回数について関連性を見るために χ^2 検定を行ったところ、両項目において有意差は認められなかった。

表6 歯科以外での勤務経験とその回数

| | 有 | 平均回数 | 無 | χ^2 検定 |
|--------------------|--------|-----------|--------|-------------|
| 4 同窓会 | 43.24% | 1.65±0.90 | 56.76% | |
| 就業歯科衛生士群 | 33.10% | 1.59±0.86 | 66.90% | n. s. |
| 未就業+復職希望 歯科衛生士群 | 33.87% | 1.56±0.74 | 66.13% | |

「 χ^2 検定」; 「就業」か「未就業+復職希望」の別での検定; n. s. : 非有意

8. 復帰に関する諸項目についての分析

本項については、比較対照のため、就業中の歯科衛生士についても回答を求めたが、その場合は離職し、復帰を希望する状況を仮定し回答をお願いした。

①勤務形態

勤務形態については、両群とも非常勤を希望する傾向にあった (就業歯科衛生士群; 68.34%、未就業歯科衛生士群; 86.38%) が、さらに χ^2 検定を行ったところ、有意差が認められ ($p < 0.001$)、

「未就業+復職希望」群がより非常勤を希望していることが示された ($\chi^2 = 50.266$, $df=1$, $p < .001$)。

1日8時間の勤務について、 χ^2 検定の結果は有意差が認められ、「就業」群が1日8時間勤務をより希望していることがわかった ($\chi^2 = 30.811$, $df=1$, $p < .001$)。また、午前3-4時間の勤務希望についても有意差が認められ、「未就業+復職希望」群がより午前中勤務を希望していることが示された ($\chi^2 = 96.501$, $df=1$, $p < .001$)。

図1 希望勤務形態：就業歯科衛生士群

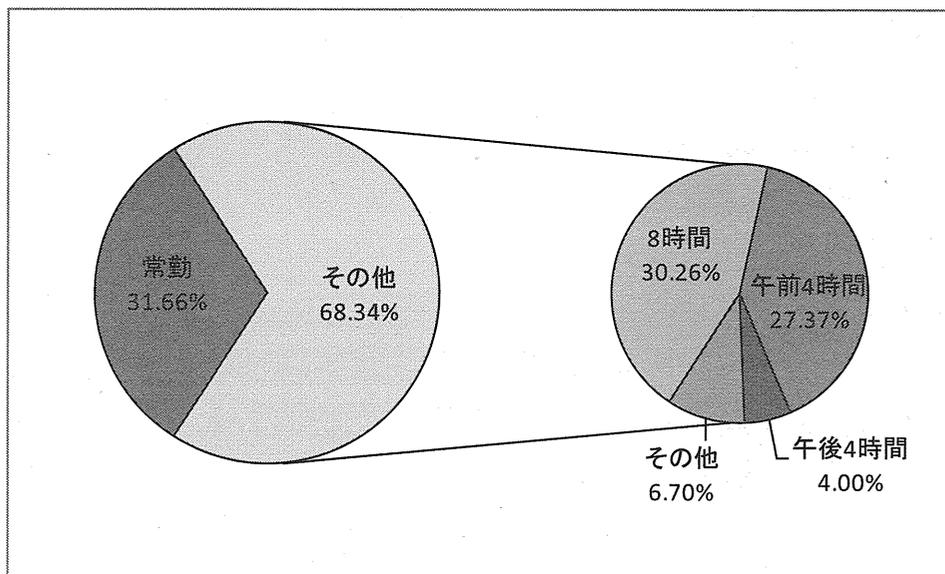
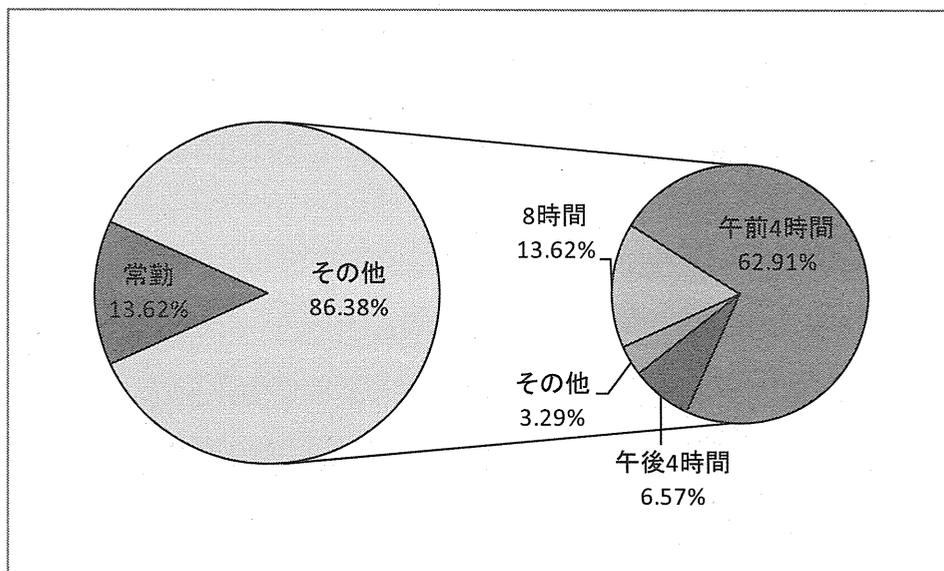


図2 希望勤務形態：未就業+復職希望歯科衛生士群



②希望賃金

「就業」か「未就業+復職希望」かの別で、希望賃金について χ^2 検定を行った結果、 $p < .001$ で有意差が認められた。この結果と残差を見ると、未就業歯科衛生士

群が、「～1,000円」($\chi^2 = 15.697$, $df = 1$, $p < .001$)および「1,001～2,000円」($\chi^2 = 25.763$, $df = 1$, $p < .001$)の項に有意差が認められた。

図3 希望賃金：就業歯科衛生士群

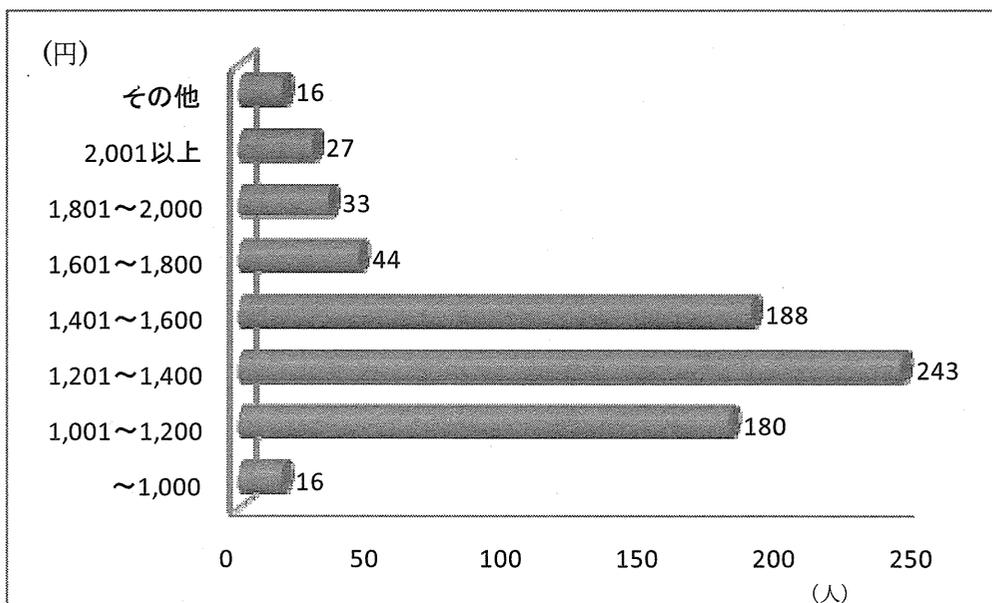
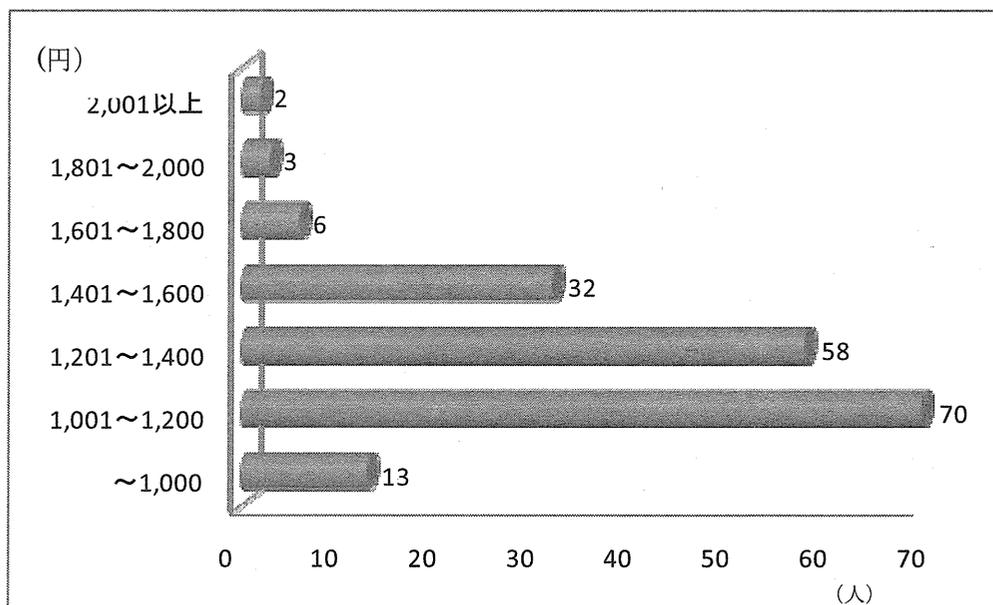


図4 希望賃金：未就業+復職希望歯科衛生士群



③ 希望業務

希望する業務は、「口腔疾患予防業務」「歯周病治療・管理」「歯科診療補助」の3項目が、両群ともに上位となった。「就業」か「未就業+復帰希望」かで、希望業務の関連性を見るために χ^2 検定を行っ

たところ、「口腔疾患予防業務」「摂食嚥下機能評価業務」「歯科診療補助」「事務業務」の項が有意であった。一方、「歯周病関連業務」「口腔ケア」「歯科医院のマネジメント」の項目は、有意差が認められなかった。

図5 希望業務の詳細：就業歯科衛生士群（複数回答可）

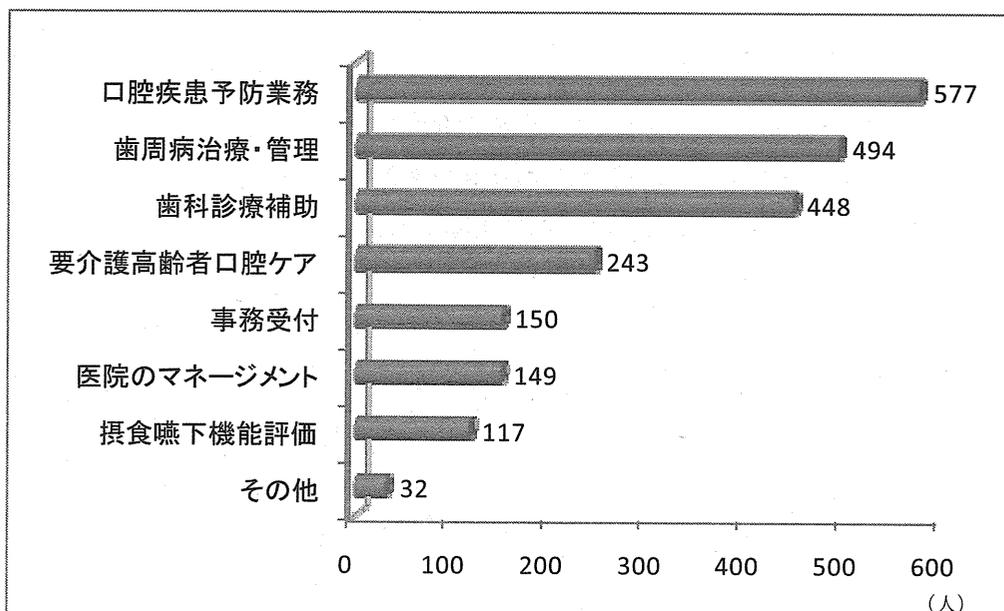
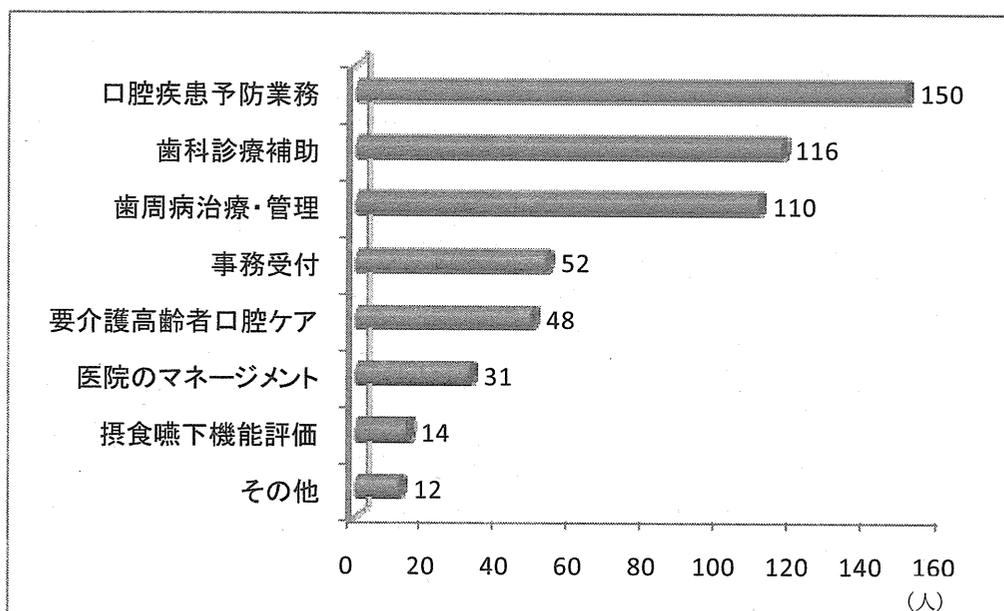


図6 希望業務の詳細：未就業+復職希望歯科衛生士群（複数回答可）

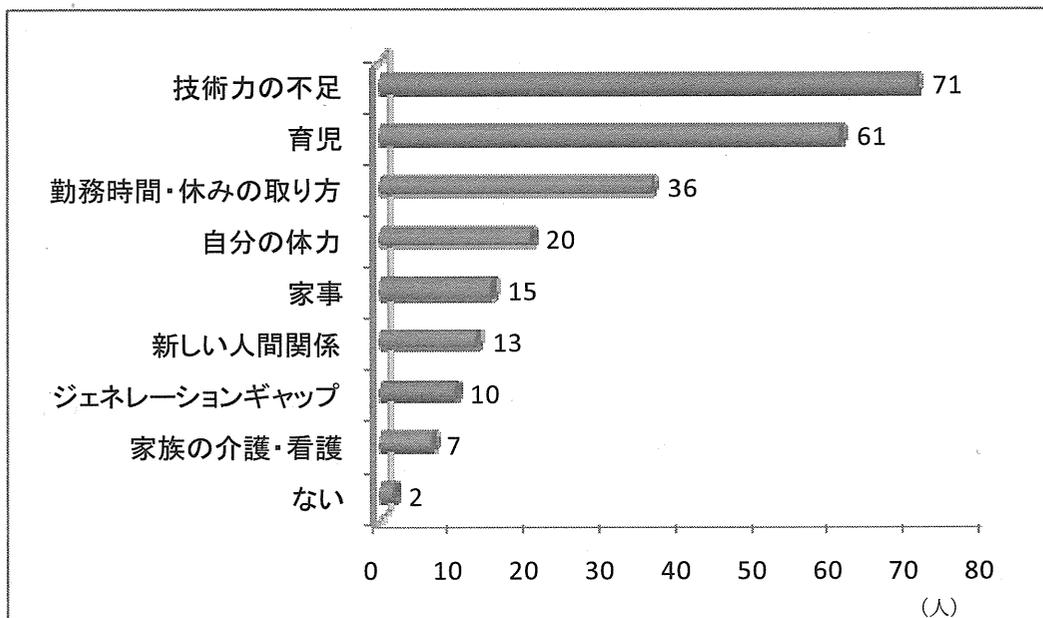


9. 「未就業+復帰希望」歯科衛生士の復職に際しての心配事（図7）

未就業歯科衛生士の復職に関する心配

事や障害は、「技術力の不足」「育児」「勤務時間・休みの取りやすさ」が上位3項目であった。

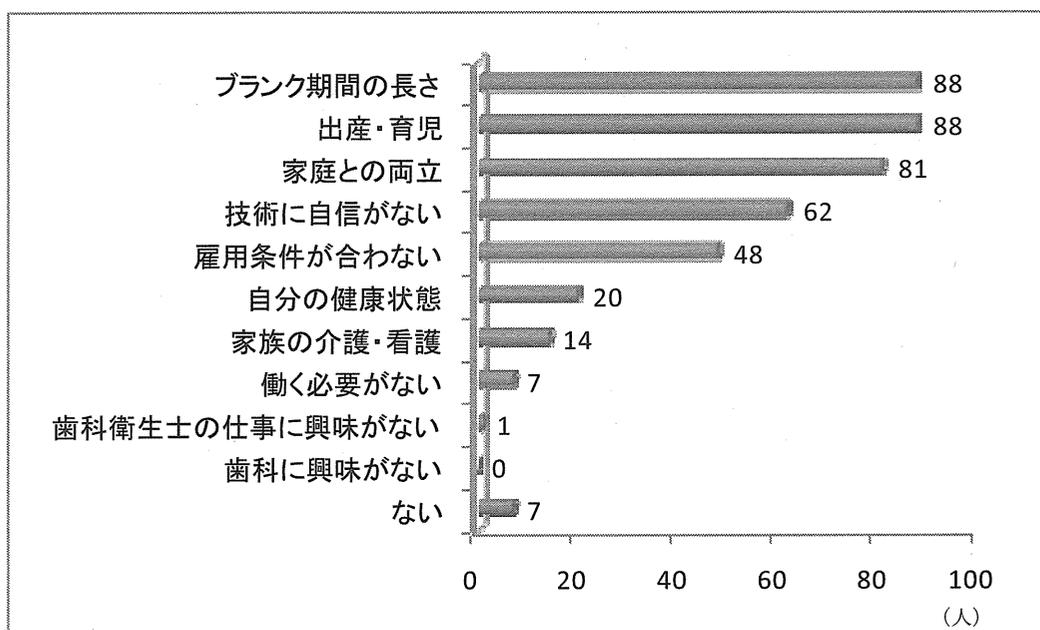
図7 歯科衛生士の復職に際しての心配事・未就業+復職希望歯科衛生士群
(複数回答可)



10. 「未就業+復帰希望」歯科衛生士の復職をためらう理由 (図8)
復職をためらう理由として、未就業歯

科衛生士は、「ブランクの長さ」「出産育児」「家庭との両立」「技術に自信がない」と感じる傾向にあった。

図8 歯科衛生士の復職をためらう理由・未就業+復職希望歯科衛生士群
(複数回答可)

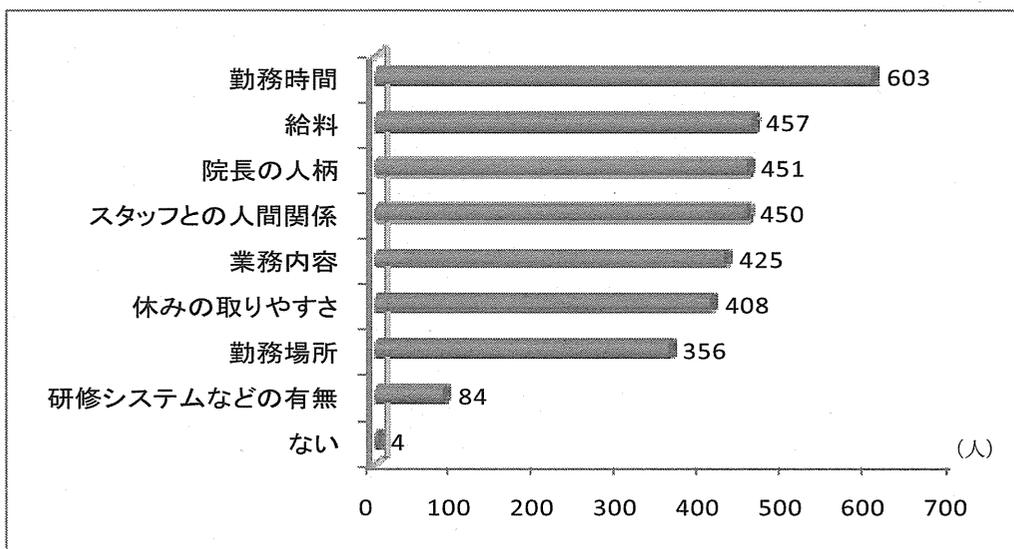


1 1. 「未就業+復職希望」歯科衛生士の復職に際し重視する点 (図9)

復職の際重視する点では、「勤務場所や時間」が上位になった。また、「院長の人柄」や「スタッフとの人間関係」も3番目・4番目に位置した。「就業歯科衛生士群」と「未就業+復職希望歯科衛生士群」

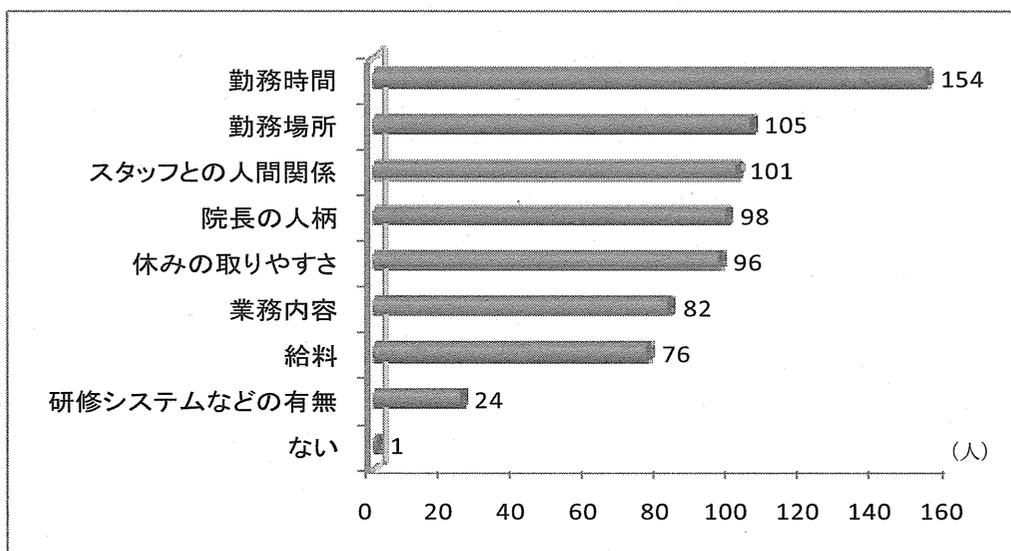
との別で、 χ^2 検定を行ったところ、「未就業+復職希望」群は、「勤務時間」「勤務場所」をより重視しているが、一方、就業歯科衛生士は未就業歯科衛生士より、給料に関して有意に重視する傾向にあった ($p < .001$)。

図9 復職に際し (仮定) 注重視する点・就業歯科衛生士群 (複数回答可)



脚注：現在就業中の歯科衛生士にも再就職すると仮定して回答してもらった。

図10 復職に際し重視する点・未就業+復職希望歯科衛生士群 (複数回答可)



12. 就業に関する自由記述回答形式による代表的な回答

就業歯科衛生士と未就業歯科衛生士の両者に、歯科衛生士としての継続就業の意見を自由回答形式にて調べた結果、複数回答が寄せられた代表的な意見を以下に列挙する。

① 就業中の歯科衛生士の意見

- スタッフ数が少ないために、急な休みや有休を申請することもできないので、結婚すると衛生士として勤務できにくい状況になる (36歳)。
- 年々、歯科業会も予防へ移行して歯科衛生士業務主体となる中で、仕事は増え、内容を求められる一方で、処置時間がかかるなど制限を受けることが多く、年々給料も減らされている (36歳)。
- 復職しやすい職業だと思うが、体力がもつ心配である (43歳)。
- 一度離職してしまうと復職する自信がなくなると思うため (24歳)。
- 歯科業界は歯科衛生士を求めている。スーパーのレジ打ちよりも有意義な素晴らしい職業 (28歳)。
- 正社員として働く場合、勤務時間が長すぎる (38歳)。
- 面接で本当に聞きたい事が聞けない現状がある。給料や有給制度、ボーナスなど事前にきちんと話し合うべき事だと思うが、”条件の事ばかり聞いてくる”と不採用になっている人もいる (34歳)。
- 色々な形の復職があるのではないかと (48歳)。
- この仕事を約40年続けてきて思うこ

とは、人が好きか？毎日を楽しめるか？につきる。今この時を自分が楽しめる事が患者様への元気パワーを伝えるコツ (59歳)。

- 歯科衛生士が長く勤務しにくい要素として、患者様に対する歯科医師の考え方が大きく左右すると思われる。歯科衛生士は予防業務が主になるが、歯科医師は治療優先になる (42歳)。
- 私は歯科衛生士という職業に就けたことにとっても満足している。再就職もしやすいし、一生の職として今後も続けていきたいと思っている (33歳)。
- 復職の条件に関しては、ある程度わがままが言える職種だと思うが、一番大切だと思うのは、院長の人柄である。 (27歳)。
- 歯科衛生士は勤務する場所が、ほとんど個人の歯科医院なので院長の考え方で、差が出てきてしまう。(勤務時間、給料、治療内容)など、衛生士だけでは改善は難しいと思う (48歳)。
- 今後も体が動く限り、パートでもバイトになっても良いので歯科関係の仕事をしていきたい。いずれにしてもやりがいのある仕事をしたい。そして雇っていただける様、勉強はしつつつけていきたい (41歳)。
- 研修システムなどの充実。看護師などのように、知識も技術も学べるような機会が充実すると、ブランクのある歯科衛生士も復職しやすくなる。個人の診療所などは特に、出産、育児に対する理解が高まることを望む。

産休・育休・有給がとれるような職場になると、退職者も減少すると思う（38歳）。

② 未就業歯科衛生士の意見

- 自分の体力・技術への不安（60歳）
- 中高年への就業へのニーズがない（59歳）。
- 精神的にも体力的にも老親の介護をしながら復職は無理（52歳）。
- 出産・育児のため、しばらく歯科の仕事から遠ざかっている。復職したいが仕事についていけるか心配。まずは、高齢者の口腔ケアなど短時間の勤務から始めたいが、ハローワークなどでもあまり見かけない。口腔ケアの分野にもっとDHが進出できればと思う（27歳）。
- 40代の頃復職したかったが、時間と場所の折り合いが悪くあきらめた。せっかく取った資格ですから復職したい思いはある（61歳）。
- ブランクがあるとやはり復職しにくい。育児などは家庭の協力もいる。私は産休後復帰したい（28歳）。
- 年金支給までの5年間の復職を考えている（52歳）。
- 将来出産のため離職したとしても、現在の歯科医院の診療時間と保育園の時間が合わず子供を預けられない。個人の歯科医院にはスタッフの為の託児所もないため（32歳）。
- 長期のブランクがある人達の為の講習会を開いてほしい（35歳）。

- 求人を出す際に、その医院の情報が少なすぎて不安になるのももう少し情報が欲しい（31歳）。
- 40代以降の復職希望者も多くいるが、院長（経営者サイド）は若く、給与を安く使える人材を望んでいるのが現状ではないか（44歳）。
- せっかく取得した免許が活かされていないことは残念に思う。高齢化が進み、口腔ケアや摂食嚥下障害予防の対策が急がれるが、そのためには現場に即した研修や新しい情報が提供される事を望む（56歳）。
- 結婚・育児で離職した歯科衛生士が保健所等の公共機関などにも復職しやすい環境を作って欲しい（33歳）。
- 歯科衛生士としての技術力と、スタッフ間や对患者とのコミュニケーション能力に対して自信がある歯科衛生士は、復職に向かえると思う（28歳）。
- 歯科医院は個人の雇用主の場合が多い為か、細かい雇用条件の提示がない場合や、雇用された後に雇用条件が違う場合がよく見られる様に思う（39歳）。
- 臨床以外の復職の場が少ないのが残念（60歳）。
- 女性であることで子育てや看護・介護のため働く意志はあっても仕事を断念しなくてはならない時が幾度かやってくる。でも長い人生の中の一時のことなので、又働けるようになった時に復職しやすい制度や、就きたい仕事に必要な知識を学ばせる制度があってほしいと思う（49歳）。